

OUJ神奈川学習センター なつだより

通巻第55号

2013年7月25日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



ペンギンたち (2~4面に関連記事)

目	予想を超えた南極クルーズ	2~ 4
	学習センターニュース(卒業研究ガイダンスと修士入学希望ガイダンス)	5
	面接授業紹介 「横浜新エネ散歩」 「サイエンスをいかに語り合うか」	6~ 7
次	卒業研究を振り返って	8~ 9
	海藻・そのロマン	10~11
	ゼミ・研究会紹介「放送大学情報化社会研究会」	12
	Kーサポートからのお知らせ／そのほかのお知らせ	13
	学生サークルからのお知らせ／神奈川同窓会だより	14~15
	学習センターからのお知らせ	16

予想を超えた南極クルーズ

人間の探究専攻 藤田 緑



私は平成25年2月5日、アルゼンチン・ウシュアイアからウシュアイア号耐氷船で南極

へ向かいました。人を寄せ付けない極寒の地、氷と雪の大地、氷と闇の世界、氷の海に行く手を阻まれた南極観測船・宗谷など・・・このようなことが私の南極イメージでした。すでに地球2周していた私はまだ踏破していない南極大陸へ行きたいと兼ね々思っていました。私が近づけるところではないと諦めていましたが、昨今、テレビで南極観光が放映されるようになり、また南極帰りの友達の話しによると、私にも行けるんじゃないかと思うようになり、ついにチャンスを得ました。私にとって南極は全く未知なところ、土はあるの？ 氷の上に着陸するの？ 氷は滑るけどどうやって？ ソディアック(上陸用のボート)に乗り移るとき南極の海に落ちるんじゃない？ などなど疑問詞がたくさんあり、不安でした。テレビやドラマで予備知識を得ましたが、未解決のまま南極へ行く日を迎えてしまいました。しかし南極に着いて一見は百聞にしかず、疑問はすべて解消されました。

南極は南半球の極地、北半球に住んでいる私たちの



季節と真逆になります。2月5日出発の日は南極の夏、南極クルーズは夏のみ出港します。180年前、最後に発見された大陸、人を寄せ付けない大陸でしたが、今では南極条約に則った観光旅行は特別なことではなく、一般人が行きたいと思えば、可能となりました。しかしその範囲は限られて

おり、南極半島、及びその周辺のわずかな部分です。私たちは南極圏、南緯66度30分以南に入ることではなく、南極地域と呼ばれる範囲で、私たちが行った最南は64度49分ウィーンケ島の一部・ポートロックロイでした。私たちのような観光クルーズは南極大陸中心部には踏み込めません。その訳は南極の氷壁を見て容易にわかりました。また南極の冬は氷に閉ざされ、光りの届かない暗闇の世界、人を寄せ付けません。越冬隊がいかに困難な生活を余儀なくされているかが想像されました。

クルーズで南極へ行くには南米大陸



最南端の岬・ホーン岬から南極半島まで970kmあるドレーク海峡を渡らなければなりません。南極大陸と南米大陸に挟まれたこの海峡を南極海流が通過する時、大荒れの海と化します。大雨の時の濁流のように、365日嵐の海、地獄のドレーク海峡などと言われています。私たちクルーズがドレーク海峡に差し掛かると船内には吐物用袋がそこここに置かれ、バーラウンジでは皆、目を閉じ、我慢してじっと座ったまま。時が経つのを待つこと30時間、ドレーク海峡を通過しました。この揺れは波高4mでしたが、揺れが少ないということでした。窓から外の海を眺めると海面が窓の下から上へ見えなくなり、上から下へと下がり見えなくなる往復です。船内アナウンスでは「デッキに出ないように、シューズを履き、階段は両手で手すりを持ち、後ろ向きにゆっくり確認しながら降りてください」と注意が流れた。うっかり支えなしで歩いた方が転倒し、大怪我をする幕もありました。今になってですが、この揺れ体験があったからこそ、南極クルーズはこれを超えた者のみが味わう唯一の達成感として良い思い出となりました。船酔いを避けたい方はチリのプンタアレナス空港から、約3時間半のフ

ライトで、南極半島北部、南シエトランド諸島のキングジョージ島に到着するフライトコースもあります。2月7日朝、出港から約30時間後、波は静かになり、遠くに冰山が見えてきました。南極地域に近づいたらしい。初めての冰山との出会い、皆カメラを手に手にシャッターを切りました。気分が次第に高揚してきました。南極特有の冰山、大きな氷床が海に押し出され、断面が垂直に切れたテーブルのような造形をしている。

7日夕方、南シエトランド諸島・ネルソン海峡を通過。南極半島パルマ群島に入りました。

2月8日(4日目)午前パルマ群島周辺のハイドロガロック島に上陸。最初の南極上陸です。朝、目が



覚めデッキに出るとグワガ グアガとペンギンの鳴き声がする。前方に上陸するハイドロガロック島が見え、ペンギンの糞の臭いが漂ってくる。白い雪が糞でピンクに染まり、ペンギンハイウェイが海から丘の頂上に続いている。事前に南極の発見の歴史、南極の生物について専門の学者からレクチャーを受けていたので、容易に想像がつかしました。逸る気持ちを落ち着かせ、上陸の準備をした。以後3日間、南極地域に滞在、生活はクルーズ船で行われました。午前、午後と上陸場所を変え、南極地域6か所を探検しました。それぞれ特徴があり、発見がありました。紙面の関係で意外性があったことのみ述べます。1. 大自然が生み出した南極の美しさに感動。

・人が手を付けていない雪氷と島々と海が織りなす自然の風景。



岩肌を覗かせた万年雪を抱いた島々と南極半島に挟まれたエレラ海峡、ここに差しかかると波一つない

まるで、海が鏡、両岸迫った雪氷を被った岩山が海

に対象に写り、銀色に光を放している。感、極まり誰れ彼れ構わず、周りの人に「これはここまで来ないと見られないねー」としゃべっていました。波一つない鏡のような海、こんな静かで美しい海が南極の海なんだと驚きました。

・南極の冰山は大きなテーブル型で、昨今は巨大冰山が誕生しています。冰山は南極ブルーと言わ



れる淡い透き通った水色をしています。その形と色彩が冰山によってさまざま、同じものはありません。ゾディアックで遊覧しましたが、魅了され、時の経つのを忘れられました。そんなところにヒョウアザシやペンギンが泳いだり、休んだりしています。

・また南シエトランド諸島にあるハーフムーン島、きれい。美しいの一言。空の青、海の青、雪に覆われ山肌を現した茶色、白、この色彩がくっきり、境界が極めてはっきりしている。青と白と茶色のコントラスト。不純物のない澄みきった空気。南極の空気を胸一杯吸いました。

2. 南シエトランド諸島・デセプション島は火山島。カルデラの一部が決壊し、沈水火口が、湾になっています。入口が548

m、航路幅はもっと狭くなり、天候や波の状況で入れない時も多いのですが、私たちは運よく上陸できました。その海岸線は湯気が立ち、海中から熱い泡がポコポコと上がり、海中に温泉が湧いているのです。裸足で歩くと熱くて瞬時しか着けておれません。海岸際



に

より海側に入ると冷たい海水と混じり、冷たくなり、海水浴を楽しむ程ではなく、海水浴を体験する程度でし



た。足湯や海水浴などで一時を楽しく過ごしました。またこの島は1912～1931年までノルウェイの捕鯨基地だった歴史を持ち、クジラの脂を取る大きな工場の残骸が無残に放置され、廃墟は当時のままの物が朽ちて、人工物がある南極ならぬ異様な風景でした。火山礫の黒い島に人工物が馴染んでしまった感じもしました。捕鯨基地の後、英国の観測基地になりましたが、3度の噴火で放置され、今は廃墟です。1990年から、英国の手で科学基地の撤去作業が行われてきましたが、南極条約によってゴミ同然の朽ちた施設は「史跡」となり、撤去する必要がなくなり、人工物のない元の自然の南極の姿に戻せなくなりました。

3. 私たちが上陸した最南は前述したポートロックロイです。ここは1962年に閉鎖されたイギリス観測基地、現在は英国遺産財団のもと博物館として管理されている。売店、ポストがあり、南極から手紙が出せる、南極の記念品が買えることが楽しみの一つでした。2月9日に家族、友人へむけ、葉書を投函しましたら、帰国後4月1日に届きました。フォークランド諸島、イギリスを經由して日本へ送られるのですから、早く届いた方だと思います。

また観光客がペンギンに与える影響について観察されており、今のところ大きな影響はないとのことでした。

4. 南極観光の醍醐味のもう一つは動物との出会いです。南半球にしか生息しないというペンギンが夏、南極で繁殖します。南極全体で地面が現れるのは3～4%ほどで、ペンギンと人間(観測基地)が地面を取り合っています。ペンギンは毎年同じ場所に戻り、繁殖を行います。私たちはヒゲペンギンとジェンツーペンギンがルッカリー(営巣地)で子育てをしているところを見てきました。ペンギンはユキド

リ、トウゾクカモメなど鳥やアザラシの餌食にもなります。2個の卵を産み、餌が多い年には2羽育てられますが、年々育てられる数が減っているそうです。越冬隊の人が南極圏にも雨が降るようになったと話されています。

ヒナは雨にあたると羽毛が濡れ、寒さで育たない。雪だと直接、羽毛は濡れないのですが・・・それも温暖化の影響で



す。ヒョウアザラシ、ウッデルアザラシ、南極オットセイ、シャチ、クジラ(名・不明)アホウドリ、セグロカモメ、ユキドリなど多数の大型動物や海鳥に出会いました。

南極は動物たちの繁殖地、人が踏み込んでいない自然が残された氷の大地。しかし、温暖化の影響で、そんな素敵な南極が壊れると危惧されています。南極の氷河・氷床の大きな融解を観測、また融解速度が速まることで、100年後には海面が50cm上昇する可能性ある。また南極の生態系、地球の生態系が変わり、生物が四分の一も減少するとも言われています。クルーズで南極の美しさを見た者として、温暖化による影響を減弱すべき方策と実践に力を注ぎ、南極の美しさ、動物たちを後世の人にも残していきたいと考えています。



卒業研究履修ガイダンスと修士全本科生入学希望者ガイダンスが開催されました。

7月7日神奈川学習センターにて、「卒業研究履修ガイダンス」(午前10時から)と「大学院修士全本科生入学希望者ガイダンス」(午後2時から)が開催されました。

大学本部から、原田順子教授、秋光淳生准教授、佐藤仁美准教授のほか卒業研究ガイダンスには、小杉真人学生課課長補佐、修士全本科生入学希望者ガイダンスには、石川泉教務課長と修了者の体験談として小西康裕氏が説明にあたりました。

卒業研究履修ガイダンス

池田龍彦所長の挨拶の後、ガイダンスビデオが流され続いて、3人の先生による説明がなされました、原田教授は、論文を書くにあたって、興味、調査可能性、研究上の意義があるものの中から研究テーマを選ぶ、どんな人でも頑張ればできるが多くの時間が必要なので、時間がとれるときに履修するのがよいと話されていました。秋光先生は、情報コース、佐藤先生は心理と教育コース卒業研究のことを中心に話されていました。小杉課長補佐



からは、複雑な手続きを丁寧に説明されていました。

大学院修士全本科生入学希望者ガイダンス

石川課長の明瞭な説明のあと、先生方による説明があつ

た。3人目の佐藤准教授が、臨床心理士コース特有の話をされたあとに、小西氏によ



る臨床心理プログラムでの体験談。厳しい授業のことや、家族のや職場の協力など、苦しくとも充実した時間を過ごされたことを穏やかな口調で話された。

どちらのガイダンスも、質疑応答では、質問が続き、先生方事務の方、参加者の熱意に真摯に応えていました。卒業研究履修を考えている方、修士に進もうという方、ガイダンスの機会を是非活用して頂きたいと思



【新任職員紹介】

放送大学神奈川学習センターに平成25年7月1日付け採用になりました。どうぞよろしくお願いたします。

新人事務職員	
教務係員	中野 菊夫

【退任】

放送大学神奈川学習センターを平成25年6月30日付け退任されました。

退任職員	
教務係員	中村 太一

面接授業「横浜新エネ散歩」

受講生 近藤 幸直

5月18日、24日、6月1日、8日の4回、秋鹿研一客員教授 鈴木孝弘 東洋大学教授による、ハマウイング、TVKハウジングプラザ横浜、東京ガスワンダーシップ環境エネルギー館 見学を含む面接授業「横浜新エネ散歩」が開講された。



秋鹿 客員教授

13年度上期面接授業の案内で、エネルギーをテーマとしていて、しかも、風力発電所などの見学ができる



講座ということで興味を持って受講しました。2時限×4回の講座でしたが、初回は座学、以降2回の見学会と1回の意見交換会というスタイルだったので、他の講座とは違い、目と耳に加え、脚と口も、合わせていつも以上に頭を使う講座でした。

この講座のハイライトはやはり2回の見学会、特に私には、横浜港ノースドックにある『ハマウイング』横浜市風力発電所の見学会だったように思います。



快晴の朝、京急仲木戸駅前に集合。貸し切りバス(観光バスではなく市バスでしたが)に秋鹿先生以下25名ほどの団体です。講義ではありますが、気分はまさに遠足でした。



見学したモデルハウス。屋根一面が太陽光パネルで覆われている。(TVKハウジング)

五月晴れの空の下を、長さ80メートルの大きな3枚羽根が回転・発電している様子は、まことに絵になる、と期待

したのですが、現実には厳しく、ここでは発電に適した風があまり吹かないそうです。我々が到着した時も、羽根は止まり気味、見学中に風が吹き始めてもまだ発電量ゼロの状態が続きました。(帰る時には発電していました。)

講座の最終日は、教室で全員が風力発電、および太陽光発電について意見発表・交換をしました。この風力発電に関しては疑問も多く出ました。その議論の中で、自然エネルギーの活用という目的と、現状にはギャップがあること、また、私たち個人が問題点をきちんと認識できるような情報、見学・学習の機会などが充分ではないこと、なども話し合われました。



今回の講座の目的は「現在進みつつあるエネルギー変革に、主体的参加・発言できる力を養う」とあります。見学会を通して事実を知ることの大切さ、ま

東京ガスワンダーシップ環境エネルギー館、廃熱投入型冷温水機(上)燃料電池発電システム(中)屋上のピオトープ(下)

た、その事実と他の情報とを合わせ、政治や経済的な背景も理解しつつ、自分の意見を組み立てる作業の第一歩を経験できたと思います。今後もエネルギー問題・エネルギー政策に関心を持って自分の意見を持てるように継続したいと思います。

最後になりますが、秋鹿先生、鈴木先生ならびに同学のみなさん、興味深い講座、たのしい教室ありがとうございました。またの機会を。



面接授業「サイエンスをいかに語り合うか」

6月15日、16日、橋本裕子氏(ライフテクノロジーズジャパン(株)サイエンスコミュニケーター)の講師による「サイエンスをいかに語り合うか」が、開講されました。



講師の橋本裕子氏

はじめに、解きほぐす意味で1人1分の自己紹介から、そして、アンケート用紙に記入する、原子力発電や遺伝子解析や操作についての問いなど、今回の授業で取り上げられるテーマを中心とした設問があった。

つぎにグループディスカッション、テーマは、「原発輸出についてどう考えるか?」どう思うかについて、話し合った。自分の意見を言う、人の意見を聞くそれだけが注意点。賛成か反対かその理由も含めて紙にまとめる。



午後は、参加者の意見



を引き出しながら話し合いを進行させるファシリテーションを学ぶ。全員がファシリテーターを体験しながら、ロールプレイを行った。

2日目は、生命科学をテーマに学習が進む、議論を深める前提としてゲノム、遺伝子、ES

細胞など生命科学についての講義があった。

再びグループに分かれて「再生医療」についてマインドマップを作っていた。中央に、テーマとする再生医療と書いて、そこから放射状に連想されることを書いてゆく手法。



最後の時間は、「デザイナーズベビー」(遺伝子組み換えで親の望む子供をつくること)と「iPS細胞を



マインドマップの一枚、各グループ個性的なマップになった。

使った美容整形」をテーマに、それぞれ賛成グループと反対グループに分かれ、ディベートを行った。賛成、反対、それぞれ立論をし発表して、質疑を行い、結論を述べた。

身近で今日的なテーマだけれど、専門家の議論に任せすぎてしまいそうなことを一人一人がお互いの意見を尊重しながら考えてゆく、議論を深める練習であり、科学を自分たちの手につかむ体験と思った。



卒業研究を振り返って

心理と教育コース 永井 茜

これから卒業研究を履修しようという方、もしくは悩んでいる方に何かお役に立てればと思い、今回書かせていただきました。

大学と言えば卒研というイメージがあり、せっかく先生に会って教えていただけるチャンスはなかなかないので、チャレンジしてみようと思いました。

私は「嘘をつく動機とイメージの男女比較」というテーマで研究報告書を作成しました。最初は、男性のほうが女性より嘘をつくという結果を予想していました。仕事上でそういう機会が多いのでは？と感じていたからです。実際には、予想していた結果とは異なりましたが、女性と男性で嘘という認識、イメージの違いがあるということもあり、女性は男性よりも日常生活において、人間関係を円滑に進めていくために嘘をうまく使いこなしているということがわかりました。



3月下旬、第1回目の卒業ゼミが行われ、そこで初めてゼミの仲間(5名)と会い、それぞれの研究内容について発表し、どういった方向でやっていくのか話し合いました。

担当教員によってやり方は異なっていると思いますが、星先生のゼミでは月に一度、文京学習センターにてゼミが行われました。次のゼミの前日までに、レジュメを準備し、ゼミではその進捗状況を報告し、先生からのアドバイスやゼミの仲間からの意見、提案を参考にしながら、研究内容を進めてゆきます。

調査方法

● 調査対象者：社団法人男女

表1. 調査対象者数(人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不詳	海外	合計
女性	9	23	33	13	4	1	1	1	63
男性	7	18	7	14	8	0	0	0	56
	16	41	40	27	12	1	1	1	142

● 調査方法：質問紙

<質問紙1>

1-1. 最近ついた嘘はどんな嘘か？ 1-2. いつごろ？ 1-3. 誰に？
 1-4. なぜその嘘をついたのですか？(①～④の選択形)
 1-5. その結果どうなりましたか？

<質問紙2>

嘘という言葉に、あなたは、どんなイメージを持っていますか？

ゼミの仲間は着々と研究レポートを進めている中、私はアンケート収集に苦戦し、ゼミの仲間にもアンケート収集に協力してもらいました。最終的には、星先生のお力をお借りし、先生の講演会でアンケート収集をさせてもらい、おかげさまで140名近くの方にご協力いただくことが出来ました。神奈川学習センターの方にもたくさんいらっしゃったかと思います。アンケートご協力いただいた方には、感謝の気持ちでいっぱいです。このような形で申し訳ないのですが、無事卒業研究を終えることが出来ました。お礼を申し上げます。

そのアンケート収集が7月後半でしたので、それから集計し、結果、考察といった内容へ入っていくのですが、8月下旬に中間発表会が行われ、アンケートの集計と結果のみで完成には程遠い形で中間発表は終わり、落ち込んで帰ってきたのを今でも鮮明に覚えています。この中間発表会は他の先生のゼミで行われているのかは分かりませんが、星先生のゼミOBの方たちの前で発表するものです。そこで、ゼミOBの方から、助言や提案等をいただく事ができ、12月の発表の予行練習にもなるので、とても大切な発表の場を設けてもらえたと思って

います。

中間発表会以降は、それぞれ研究報告書を作成し、11月(月上旬)の研究報告書提出および、12月(月上旬)の発表に向けて準備を進めていきます。報告書作成中は、書くのを諦めて止めてしまおうかと何度も思いました。集計結果の図や表はできているのに、いざ書こうとすると文章がうまく纏まらず、パソコンとにらめっこの毎日でした。友人の力を借り、添削をしてもらい、心理学という学問に触れたことがない第三者からの視点での感想も得ることが出来ました。

また、今までPowerPointを作成した事がなかったので、発表用資料は発表当日まで手直していました。発表会は、他のゼミ生と合同で行われ、1人20分時間が与えられ、10~15分は発表、残りは質疑応答の配分でした。



あっという間の1年(正確には7カ月弱)でした。途中何度も書くのを諦めて止めてしまおうと思いましたが、アンケートに答えてくれた方からの励ましの言葉、頑張っているゼミの仲間を思い出し、最後まで書き終える事が出来たので、あの時諦めずに書いて良かったと思っています。研究内容や環境は全く異なったゼミの仲間



との交流、出会いは、新鮮で貴重なものだったと思います。

卒業研究を履修しようか悩んでいる方がいらっしゃるのであれば、今どういった研究をしたいか少しでも何か考えがあるのであれば、卒業研究履修の手引きに“質問票”があるのでそれを活用し、先生に助言をもらってみたいかがでしょうか？

私の場合は、その回答をいただいたのが星先生で、そこから今の研究テーマへ導いてもらえたのではないかと考えています。



海藻・そのロマン

高橋 昭善

一 島根県 隠岐の島クロキズター

昭和63年(1988年)8月、わたしは仕事の関係で松江へ行った。その帰途、かねてからのおもいから、真夏の太陽を背に、境港14時35分発のフェリーにて一路、隠岐の島の別府港をめざした。

はじめて訪れるこの地は、太平記を含め、昔から数々の歴史を秘めた島として有名である。しかし、わたしはそれ以上に海藻で唯一、国の天然記念物に指定されているクロキズタ *Caulerpa scalpelliformis* (イワズタ科) に会いたい、のおもいであった。



クロキズタは、遠くアラビア半島とアフリカ大陸の境、紅海を原産地とする緑色の海藻であり、我が国では、隠岐島の別府湾にしか生存していない奇種である。

大正時代、海藻学の大家、岡村金太郎博士によって発見され、この地に黒木御所あるところから、クロキズタと命名された。そして植物地理学的に貴重であるため、大正11年、国の天然記念物(写真左:高橋)に指定された。

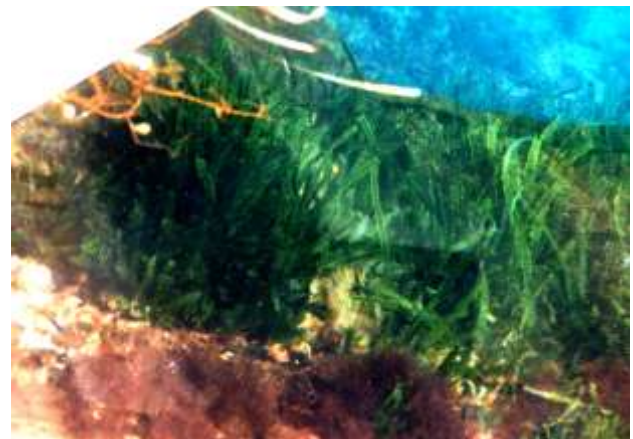
「どうしても一度、実物をみたい」それが、なが年の夢であった。

何故にこの地に存在するのか。昔、帆船による南西アジアと我が国と交易が盛んであった頃、船底にクロキズタの胞子が付着し、この地にもたらされたのではないかとするものが定説である。いわば日本海交易にかかわる自然史の一面を担っている。夕闇迫る別府港に下船し、一人船着き場でたたずんだ。

翌朝、あらかじめ乞うていた地元教育委員会の課長さんに生育地を

案内していただいた。港から15分ほどの場所、黒木御所を背に小さな入り江に面した先沖合10m。「あれがクロキズタですよ」といわれた。赤茶色の岩石海岸の中ほど水深50cm付近に確かに特徴のある形態で、クロキズタの姿を目にすることができた。

濃緑色で深い切り込み。「確かにクロキズタ！」大きく深呼吸をした。しかし、天然記念物ということで、採取はかなわなかった。やや離れたところから、海水中のクロキズタを数枚写



真に納めただけであった。

その日の別府湾は波静か。日本海の空は青く澄み、海水の透明度は大。しかしながら写真には、はっきりと映し出すことはできなかった。

やがて午前9時45分、その日の境港行きフェリーに乗船、クロキズタ眠る別府湾を後にした。いつの日かの再会を夢みて。

あれからすでに25年が経つ。

一天城越え・寒天橋

石川さゆりの情念の歌「天城越え」。その2番の歌詞に「寒天橋」がでてくる。

旧下田街道を修善寺に向かって右側。旧天城トンネル(海拔708m)の手前にある橋、それが寒天橋である。そこからさらに右側に入る小道は、天然記念物「モリアオガエル」の棲息地として知られる八丁池に向かう道で、寒天道という(ひとときは小型バスが入っていた)。

大型バス等による観光ルートから外れているため、多くの方にはこの橋は目にとまらない。地元の人はこの付近を「かんでん」と呼ぶ。



山深いこの場所に、寒天の名が存在することに私は大きな驚きをもつ。

寒天とはマクサやオゴノリなど紅藻類の粘液質を凍結、乾燥したものである。

伊豆の海はマクサの生産地である。夏には白浜や弓ヶ浜をはじめ南伊豆、西伊豆の沿岸では、浜辺や道路横に、ところ狭しとマクサが一面に干されている。

いづれか寒天の地名に付いて下田市の図書館に資料の問い合わせをしたが用を得な

かった。ただ、寒天という地名が残っていることからして、なんらかのかかわりがあるものと考えた、たとえば

①寒天業

しかしながらマクサから寒天化するのにはかなりの労力が要求される。原藻の配合から始まり、水漬け、洗じょう、煮熟、ろ過、凝固、凍結、等々の諸工程がある。冬場凍結するのはこの地とはいえ、業をするのにはかなりの無理がある。

②輸送路

南伊豆で採取したマクサを東伊豆(伊東など)を經由し箱根越えで山梨、長野(諏訪、茅野)へ送り届けた道である。山中の八丁池の東先には伊東市へ続く天城縦走路がある。

しかしながらこの推論は、文献から否定せざるを得なかった。「寒天橋」その名はいつ、だれが、なにゆえにつけたのであろうか。



放送大学情報化社会研究会

大津 昭浩

「神奈川学習センター便り」をお読みになっている皆様に、「放送大学情報化社会研究会」のご紹介をさせていただきます。同会は、放送大学大学院の柏倉ゼミ生を中心として結成している会ですが、同ゼミの終了に伴いまして柏倉康夫(放送大学名誉教授)先生を軸とするオープンな、つまりどなたでも入会いただける研究会として、神奈川学習センターを主な活動拠点として利用させていただいております。

情報化社会研究会について若干、詳しくご説明させていただきますと、同会は、会員相互の情報交換の場であると同時に、会員になっておられる方々へ研究発表の場を提供しております。最も大きな活動としては年1回のペースで発行している「情報化社会・メディア研究」誌の編集業務です。これまでに第9巻まで発行しております。同誌に掲載させていただいた研究成果については国立情報学研究所が運営している学術文献データベース(CiNii、サイニイ)で全文を参照頂けます。

また、こうした研究成果を土台として、皆様と意見交換する「塾」として、「三無会」(さんむかい)という取り組みも行っています。この会は、柏倉康夫先生を主幹として不定期に、全国の学習センターを利用させていただいて開催しているもので毎回、テーマを変えておこなっております。また、自由にご参加頂けますので、開催告知をごらんになりましたらお気軽にお立ち寄りください。

今回、6月8日(土)に神奈川学習センターにて開催させていただいたのは、こうした研究成果発表の一環あります。同じく、神奈川学習センターを拠点としておられる「ガバナンス研究会」(主宰・天川晃氏)のゼミ生の方々と合同研究会として発表、ディスカッションの場とさせていただきました。

この研究は、東日本大震災の発災を受けて、「情報化社会・メディア研究」誌として、何らかの検証に取り組み、それを三無会として広く公表していく目標を立てました。そこで、同誌第9巻の特集「原発事故を 米軍”準機関紙”はどう伝えたか—STARS AND STRIPES紙の報道内容分析から—」として、有志メンバーらが協力して取材・執筆・編集して取り纏めさせていただいたものです。

検証した内容は、主に震災発災に伴って起きた福島第1原発事故報道について、国内メディアと異なる報道をしていたかどうかという検証です。具体的には、スターズ・アンド・ストライプス紙の取材体制、発災直後の紙面構成、原発事故報道の特色、主な国内報道との比較などです。とくに、放射能影響については、高い重要度を以て報道していたことを明らかにしております。

神奈川県内には米海軍の横須賀海軍施設を中心として在日米軍の拠点および扶養家族の方々向けの住宅施設が多く存在します。こうした県内の軍関係の民間人に対しては航空機による避難を始め、ヨウ素剤の配布について逐一、報道されていたことが確認できましたが、当時、日本国内メディアは、こうした件について報じていませんでした。

この研究内容については、4月1日に神奈川学習センターにて「緊急シンポジウム」として報告させていただいております。ご参加頂いた方々からは、貴重なご意見、コメントを頂戴しております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。



Kーサポートからのお知らせ

○学習相談チーム

Kーサポートの学習相談、2013年度第1学期は、10月19日から12月22日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分の間、2階、談話室の相談コーナーで行います。予約は不要です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。また、11月下旬に提出する「通信指導」についても、助言や指導いたします。

主催 放送大学神奈川学習センターウォーキング部

逗子・鎌倉・歴史・自然探訪 いざ鎌倉

逗子から武家の

古都鎌倉へ!

名越切通・まんだら堂やぐら群を
抜け、和賀江嶋へ歩きます!

山道・急坂 急階段あり

11月2日・9日
土曜日
同じコースだよ

健脚向きコース、
歩きやすい靴で
来てね!

お問い合わせ 9月1日～10月25日(金)【丸筆 毎日40名まで】
FAX・Emailにて
イベント名「ウォーキング」、希望日、氏名、性別、年齢、連絡先、当日の緊急連絡先等をご記入し、お申し込みください。

①Email ksupport@oulac.jp
②FAX 045-710-1914
③お問い合わせ 045-743-0922 取柄 アナログで

④期 日 2013年11月2日(土)・9日(土)11時15分
⑤集 合 逗子・海防1(鎌倉港向集合) 9:30～10:00
(J川逗子駅・鎌倉新道下車後 徒歩3分程度)

⑥参加費 5:50分程度の参加費あり。車マナーの表示が必須は11月16日(土曜日)に延期

⑦期 日 9:30 スタート1000 海防1で
⑧コース (約の時間 1.0hr 途中に山道あり)
海防1(鎌倉港向)～名越切通～パノラマ台(深溝)～次郎山～和賀江嶋～和賀江嶋～和賀江嶋～和賀江嶋～和賀江嶋

⑨参加費 参加費・受付料 200円
⑩申込期間 10:00～15:00
⑪延期日 11月16日 参加費5:50分程度の参加費あり。車マナーの表示が必須は11月16日(土曜日)に延期

OUJ神奈川学習センターだより編集部

赤松、家田、伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、
菅崎、三国、和田
(50音順、以上、Kーサポート機関紙編集チーム)
垣谷(Kーサポート事務局)
石塚(学習センター事務室)
カット絵は、よーこさんの作品です。

学生研修旅行のご案内

研修テーマ:多摩丘陵を訪ねる<生田緑地・調布>

1. 日 時: 平成25年10月11日(金)

8:30～17:40【雨天決行】

横浜駅西口天理ビル前 8:20集合、18:00解散
(予定)

2. 研修場所: ①東京都調布市深大寺 調布航空
宇宙センター ②川崎市多摩区枳形 生田緑地
(日本民家園、岡本太郎美術館、かわさき宙と緑の
科学館)

3. 募集人数: 33名(応募者多数の場合は抽選)

4. 申込受付: 7月25日(木)～8月3日(土)

(閉所日を除く)

神奈川学習センター窓口にて(窓口以外での
受付はできません。)

6. 参加費: 当選者は8月15日(木)～8月29日
(木)に参加費をお支払いください。

最大1,000円(入園・入館料・観覧料・旅行保険
料。昼食代別途。)

編集後記

今回はじめて、卒業研究をテーマの記事を取り
上げることができました。昨年の今頃、毎週毎週、
学習センターに通い、試行錯誤の中に、卒業研究
に取り組まれていた永井さん、卒研を取ろうか悩
んでいる方にとっても参考になる文章と思います。
ご寄稿感謝申し上げます。

もう一つのはじめてが、ゼミ・研究会の紹介。
卒業研究、修士論文のゼミから発展した、研究会
やゼミは、素晴らしい活動をしている会がいくつか
ありますが、取り上げる機会がありませんでした。
無理を聞いてくださりご寄稿頂きました。大津さま
会の皆様に感謝いたします。

今までになく、編集作業が遅れ、面接授業講師
の秋鹿教授、橋本氏ほかの方に、急な校正をお
願いしました。お詫び申し上げるとともにご協力に
感謝いたします。本誌を支えてくださっているみな
さまにお礼申し上げます。
(H)

学生サークルからのお知らせ

○神奈川放友会

本年度上期の入学者の集いで18名の新しい会員を迎えました。来る9月は放友会にとってビッグイベントの月となります。

7日、8日のフェスタでは、交流会で焼きそばとかき氷の提供、俳句川柳大会の実施のほか、作品展示においては会内同好会からの書や俳句のグループ展に参加します。

また、13日、14日は恒例の1泊研修を行います。大学本部のセミナーハウスに宿泊し、会員の修論発表会や、施設見学などで親睦を深めます。
事務局長：高橋照夫

○韓国語同好会

- ★簡単なハングルでおしゃべりを！！新企画です。
14:00～ 自主学習会に参加下さい。誰もが主役です。
- ★定例会 毎月第1、第3土曜日(変更有) 見学自由。
場所;神奈川学習センター 当日、入口のボードで案内。
時間;10:00～14:00 ・午前グループ、午後グループ別ハングル学習・ミーティング、昼食含む。
14:00～15:00ハングルで話そう！(初級者学習も含む)
講師 金蘭美先生(横浜国大客員研究員)
- ★フェスタ・ヨコハマ 9月8日(日)
韓国直送マッコリ提供！！
- ★ホームページ 例会案内・活動記録を掲載。
<http://www.hangugo-club.org>
- ★問い合わせ 090-5797-9418(村田)

○拡大かながわレク・サークル

- ★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。
学習日時:第2、第4木曜日 13時30分～15時30分。
場所:神奈川学習センター 実習室:申込制
- ★ウオーキング部:2ヶ月に1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化 施設等も対象
- ★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
上記の各種活動はいずれも自由参加。
—会員募集中(随時申込・受付)—
問合せ:島田 義治 Tel 090-3907-8384
E-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

○人間学研究会

1. 例会
 - ・8月10日(土)「最近の中国旅行の変貌について」午後1時より、神奈川学習センター第3講義室
問い合わせ 安田武夫 Tel 045-775-0879
2. その他(hitoken club)
 - 9月18日(水)三浦磯歩き
 - 10月17日(木)二子玉川

○中国語学習会

- 少し距離感のある大国、中国、私たちは二人の中国の先生の丁寧な指導のもと、純粋に中国語を愛し学んでいます。学習日に どうぞ見学にいらしてください。
- ☆学 習 日: 第一、第三日曜日
 - ☆学習時間:10時～12時 中級(告旭平老師)
「本気で学ぶ中国語」使用
 - 13時～15時 初級(唐斌老師)
「301初級」使用
 - ☆ 問い合わせ: 万場(まんば)由美子
046-293-5521

○うえるかむKanagawa

- 英会話、英語学習、小さな国際交流、海外旅行等英語に夢を持っている人が集まり楽しく学んでいます。
- ☆例会は毎月第2、第4水曜日(変更もあり)
 - 8月の例会: 7日 午前Benny class 午後は暑気払い
 - 28日 午前Benny class 午後 English songs と Group study
午前、午後とも自分に合うグループを選べます。
(詳細は談話室にあるチラシをご覧ください)
 - ☆うえるかむ名画座、ゲスト講演会、懇親会、その他色々な企画があります。
 - ☆活動の様子は下記のHPをご覧ください。
<http://welcome-kanagawa.jimdo.com/>
 - ☆皆様の見学お待ちしております。
問合せ:星 礼子 090-4054-8282
reikosunflower@yahoo.co.jp

○ダンスサークル（社交ダンス）

レッスン日 毎月第2火曜日と第4火曜日
 時間 午後2時～4時
 費用 年会費 入会時に1000円(以後毎年1000円) レッスン料 月1500円

場所 第7講義室

その他 全科履修生は体育実技(1単位)を取得できます。

レベルの高いステップではなく基本的なステップの組合せで楽しく踊る！を目標に練習に励んでいます。ダンスを始めてみましょう!! きっと新しい世界が開けますよ!

お問い合わせ 放送大学ダンスサークル 宮川
 Tel.045-933-9753

○神奈川合唱団

楽しく一緒に唱いましょう。

3月、学位記授与式にNHKホールにて学歌を唱いました。発声法に特に力を入れた指導を受けています。また“歌声喫茶”を設け仲間との親睦を深めています。気軽に見学において下さい。

場所 大岡地区センター(神奈川学習センターの向い側)

第1、第3水曜日 午後6時～8時30分

連絡先 家田 0466-34-7545

赤松 044-288-0655

○資格取得研究会

看護・福祉分野を中心にキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。現在、大学卒を目指す看護師の方、看護師国家試験を受ける方、医療関係、福祉関係のキャリアアップと認定心理士を取られる方などで構成されています。内容は例会(情報交換)と講演会の聴講、見学会など。

これからの例会予定

・8月18日(日)10:00 会場未定。

・10月5日(土)13:00 開催予定、会場未定。

会費: ¥500(1年間)

ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>

お問い合わせ…080-5546-7913(はこぎき)

神奈川同窓会だより

☆～「行くところがある」「会う人がいる」
 その場所は同窓会“弘明寺サロン”です～

☆ 同窓会に「会内同好会」が誕生

①茶道同好会→1回目8月21日大岡センター

②映画研究同好会→9月18日「二十四の瞳」

☆ 原則第3水曜日 午前中 各同好会開催
 午後“弘明寺サロン”を計画

☆ 同窓会会員の他一般学生大歓迎

HP:→http://www.geocities.jp/hatoh_net/

お問い合わせ…045-333-4426 金田 保男

放送大学創立30周年記念
第27回 フェスタ・ヨコハマ
 <放送大学神奈川学習センター学園祭>
 2013年9月7日(土)～9月8日(日)

『出合い・般れ合い・学び合い』

初日:9月7日(土)は、9:30～16:00「大岡寄席」「うたごえ喫茶」「ダンス・パフォーマンス」などのイベントが盛りだくさん。また、両日とも学生等の作品展示を行います。詳細はちらしをご覧ください。

2日目:9月8日(日)10:00～12:00
 記念講演会:池田 詔彦 放送大学神奈川学習センター所長



演題:「日本の国際化と開発途上国への協力」
 グローバル化した社会における日本の国際化の歴史と現状について考えるとともに、戦後日本が築き上げた時代に生まれた開発途上国協力の戦半世紀の歴史を振り返り、今後日本が途上国と付き合っていく方向性を探る。

講師プロフィール
 29年間、演習科官として日本及び世界の経済開発と管理運営に専事した後、横浜国立大学国際社会科学部准教授となり国際開発分野で約13年間教鞭を執る。その後アジア開発銀行インフラストラクチャー部にてアジア地域インフラ部門のプロジェクトを担当し、JICA社会開発調査員としてインフラ開発・教育・保健衛生等を念めだ社会開発調査を行い、連綿として開発途上国への技術協力と経済協力を担当した。2013年4月から現職。

学歴: 1971年3月 早稲田大学理工学部卒業
 1975年8月 スタンフォード大学大学院修了

職歴: 1971年4月 演習科入部 2000年7月 演習科退職
 2000年7月 横浜国立大学大学院国際社会科学部准教授
 2013年3月 横浜国立大学定年退職
 2013年4月 放送大学神奈川学習センター所長

引き続き
12:30～15:30 親睦交歓パーティー(豆食パーティー)
 茶席、各サークル出店、餅句・川柳大会、大抽選会

参加券: 1,000円 * 9月8日行事の参加には「参加券」が必要です。
 当日券の用意はありません。事前にお求め下さい。

入手方法: ①神奈川学習センター1階ロビーにて次の日程で配布します。
 (センター休館日を除く)
 7月26日(木)・7月27日(金) 8:45～17:00
 7月28日(土)・7月29日(日)～8月3日(土) 9:30～18:00
 ※下記の参加団体にて取り扱っています。

参加団体: うえるがむ神奈川、神奈川校友会、韓国語研習会、異文化理解研究会、中国語研習会、人間学研究会、放送大学神奈川支部、放送大学ダンスサークル、植大かながわバレーボールサークル、神奈川同窓会
 主催: 放送大学神奈川サークル協議会 会場: 放送大学神奈川学習センター
 お問い合わせ: 045-814-2901(神奈川サークル協議会代表: 本村 裕紀)
 045-821-2467(志願担当: 園崎 博之)

学習センターからのお知らせ

◆ 学生募集について ◆

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族・ご友人・知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いいたします。

【平成25年度第2学期入学(10月入学)の教養学部生、大学院修士選科・科目生】

募集要項配布期間:6月15日(土)～8月31日(土)

出願受付期間 :6月15日(土)～8月31日(土)

【平成26年度第1学期入学(4月入学)の大学院修士全科生】

募集要項配布期間:6月15日(土)～8月30日(金)

出願受付期間 :8月16日(金)～8月30日(金)

公開講演会 :8月10日(土), 13:00～14:30

「企業と社会の人材戦略」講師:原田順子(放送大学教授)

公開講演会 :8月18日(日), 13:00～15:00

「臨床心理学～こころの問題を考える」講師:橋本和幸(了徳寺大学准教授)

「認定心理士の資格」講師:福田幸男(横浜国立大学教授)

大学説明会・施設見学・入学相談:8月10日(土)14:50～開催。

:8月18日(日)15:15～開催。

入学相談会 8月20日(火)～8月31日(土)【(月)を除く】

各日とも:午前10:00～12:00、午後2:00～5:00に開催(予約制)

～皆様の多数の参加をお待ちしています～

◆ 科目登録申請について ◆

平成25年度第2学期の科目登録申請は下記のとおりです。登録を忘れないようご注意ください！！

申請期間:平成25年8月15日(木)～平成25年8月30日(金)必着

対象学生:平成25年度第2学期に引続き学籍がある方

注意事項:◎在学生の次学期の科目登録(放送授業及び面接授業)申請です。

入学(出願)手続きとは申請期間が異なります。

◎インターネットでの科目登録も可能です。詳細は、「科目申請要項」をご確認下さい。

◆ 特別聴講学生募集について ◆

放送大学(神奈川学習センター)では、横浜国立大学と放送大学とが相互に単位を互換する協定を結び、双方向による単位互換を実施します。

これにより、放送大学の学生(全科履修生)は、単位互換協定を締結している横浜国立大学の授業科目を履修することができ、修得した単位は、放送大学の単位として認定されます。

平成25年度2学期(後期)の募集については7月以降に神奈川学習センター掲示板・ホームページで周知いたします。

1. 出願資格 ①全科履修生
②本学の在学年度が1年以上の者
③放送授業科目において30単位以上を修得した者
(出願先「横浜国立大学」へ通学が可能である者。)
2. 出願のための履修相談先:神奈川学習センター事務室窓口

神奈川1694とあらい

